

Part 1

おぢやの想い

〈基本構想〉



■ これからの10年間、小千谷が目指すまちの姿

笑顔と希望を育む「おぢやの輪」を みんなで未来へつなぐまち

「おぢやの輪」とは

「おぢやの輪」とは、小千谷との関わりの中で生まれる、

- ・世代や立場、場所を越えて想いを共有する“人と人とのつながりの輪”
- ・暮らしや仕事、活動を通して生まれる“人とまちとのつながりの輪”
- ・自然や文化、歴史に触れることで深まる“人と地域の宝とのつながりの輪”

これらの“つながりの輪”のことをいいます。

輪がもたらす好循環

「おぢやの輪」は、“つながりの輪”が何重にも重なり合うことで、より強く大きいものになります。

その結果、新たな交流やにぎわいが生まれるとともに、地域経済が活性化することで、将来にわたり公共サービスを維持できる環境づくりにつながります。

さらには、暮らしの安心感が高まり、まちへの愛着が深まることで、笑顔と希望がまち全体にあふれ、新しい“つながりの輪”が生まれていきます。

これが、「おぢやの輪」の発展がもたらす好循環です。

みんなで未来へつなぐまち

市民、企業、団体がそれぞれの立場から、「おぢやの輪」を少しずつ強く、大きくしていくために、行政としては、全ての人が無理のない形でまちづくりに関わることができる仕組みづくりや環境づくりに取り組んでいきます。

小千谷が、20年後、30年後も、誰もが笑顔で希望を持ち、安心して暮らし続けられる、持続可能なまちであるように、互いを尊重し支え合いながら、できることから一歩を踏み出し、みんなで「おぢやの輪」を未来へつないでいくことを目指します。

■地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。

■農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。

■やりがいを持って安定して働き続けられる雇用環境を整え、みんなにとって魅力あるまちを目指します。



■誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や除雪、防災などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。

■医療や福祉の支援体制を充実させ、健康に暮らせる生活環境を整備します。

■お互いを尊重しながら、地域の中で自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。



■ 4つのライフステージごとにみる「おぢやの輪」

私たちの生活環境や必要とする支援は、人生の段階や場面によって変化します。そのため本計画では、「こそだて」「はたらく」「くらす」「みがく・つなぐ」という4つのライフステージごとに目標や取組を整理することで、人生の段階や場面に合わせて必要な情報を見つけやすくし、まちづくりをより身近に感じられるようにしています。

ステージ 1

安心して子どもを産み育てられるまちへ！
「こそだて」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・妊娠・出産から子育て・教育まで、切れ目のないサポートで寄り添います。
- ・若い世代の多様な価値観を尊重しながら、仕事と子育てを両立しやすい環境を整えます。
- ・こどもたちの成長を地域全体で見守り、一人ひとりが夢や目標に向かってのびのび育つまちを目指します。

■ 将来の姿

未来に希望を持ちながら、新しい家族が誕生している



地域全体の見守りにより、親子が安心して健やかに暮らしている



こどもが夢や目標に向かって個性や能力を伸ばしている



■ 重点テーマ

- 1-1 結婚・妊娠・出産のライフステージごとの切れ目のない支援体制の充実
- 1-2 こどもの成長を見守り、親子の健やかな成長に寄り添うサポート体制の充実
- 1-3 親子の成長に寄り添い支える伴走型支援の強化
- 1-4 生きる力を育む学校教育の推進

ステージ 2

働きがいにあふれ、みんなが選びたくなるまちへ！
「はたらく」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・地域産業の魅力を高め、担い手を育てることで、持続的な経済の発展を図ります。
- ・農業・商工業など地元産業の活性化に取り組み、企業誘致や新しいビジネスへの挑戦の後押しをすることで、多様な働く場を生み出します。
- ・やりがいを持って安定して働き続けられる雇用環境を整え、みんなにとって魅力あるまちを目指します。

■ 将来の姿

地域産業の魅力が高まり、活気にあふれている



ライフスタイルや価値観に合った働き方ができている



■ 重点テーマ

- 2-1 産業の魅力を高め、担い手確保と地域経済の発展促進
- 2-2 新しいビジネスの場とチャレンジできる環境の創出
- 2-3 職業の選択肢を増やし、若者が働きがいを感じる職場環境の整備
- 2-4 働きやすい環境を整え、誰もが活躍できる職場環境の整備

この4つのライフステージごとに、目指すべき「将来の姿」を設定し、これを実現するために今後10年間で特に力を入れて取り組む施策を、「重点テーマ」として掲げています。

ステージ 3

心豊かに、いきいき暮らせるまちへ！
「くらす」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・誰もが安心して快適に暮らせるよう、道路や除雪、防災などの都市基盤を整え、災害に強く利便性の高いまちをつくります。
- ・医療や福祉の支援体制を充実させ、健康に暮らせる生活環境を整備します。
- ・お互いを尊重しながら、地域の中で自分らしく安心して暮らせるまちを目指します。

■ 将来の姿

安全で快適な環境が整い、ずっと住み続けている



安心していきいきと暮らしている



心豊かに自分らしく暮らしている



■ 重点テーマ

- 3-1 快適で利便性の高い都市基盤の整備
- 3-2 市民の安全・安心を守る体制の強化
- 3-3 適切な医療が受けられるなど、健康的に過ごせる環境整備
- 3-4 個性が尊重され、誰もが安心して暮らせる社会の構築

ステージ 4

誇れる自然と文化、にぎわいあふれる交流のまちへ！
「みがく・つなぐ」のステージ

■ 基本的な考え方

- ・小千谷の豊かな自然や特産品、歴史ある文化をみんなで守り、その魅力をさらに磨き上げる取組を支援します。
- ・地域資源を活かした体験や交流の機会を広げ、魅力を効果的に発信することで、関係人口の創出を図ります。
- ・環境保全活動や文化の継承を支援し、自然と文化を将来につなぐ持続可能なまちを目指します。

■ 将来の姿

誰もが小千谷を好きになり、かわいを持ちたいと思っている



人と人とのつながりや交流により活気があふれ、住みやすいまちになっている



豊かな自然と歴史ある文化に誇りを持ち、次世代に受け継がれている



■ 重点テーマ

- 4-1 地域資源の魅力向上とブランディングの確立
- 4-2 小千谷の魅力が最大限に伝わる効果的な情報発信
- 4-3 多様な交流による新しいつながりの創出
- 4-4 市民参画によるまちづくりの推進
- 4-5 環境負荷の低減、恵まれた自然環境の保全、循環型社会の形成
- 4-6 芸術文化活動や歴史文化の保存・活用の推進

■ 目指すまちの姿を実現するために

1 今、取り組んでいること

みんなの一步で、未来づくり大作戦

市制施行 70 周年を迎えた令和 6（2024）年を「再スタートの年」と位置づけ、人口減少による消滅可能性自治体からの脱却を目標に、「みんなの一步で、未来づくり大作戦」を展開しています。

この作戦は、市民、企業、団体、行政が連携し、それぞれができる範囲で一步を踏み出すこと（ワンアクション）で、まちの活性化につながる好循環を生むことを目指しています。

また、この作戦を推進する仲間として、「未来づくりアンバサダー」を設置しています。アンバサダーは、市内外在住を問わず、小千谷を応援したいという想いを持つ全ての方が登録でき、小千谷の魅力を広く発信するほか、それぞれの知識や経験を活かしてまちづくりに参画しています。

未来づくりアンバサダーをはじめとする、小千谷を想う人々とともに、誰もが笑顔で安心して暮らせるまちの実現に向けて取り組んでいます。

2 みんなで大切にしていきたいこと

おぢやの3つの合言葉

「おぢやの3つの合言葉」は、目指すまちの姿を実現するために、市民、企業、団体、行政が共通して大切にしていきたい考え方を整理したものです。

これらの合言葉は、関わり方や活動の有無にかかわらず、どのような状況にあっても、全ての人が尊重され、安心して暮らせることを前提としています。

一人ひとりの想いはさまざまですが、それぞれの存在や取組が重なり合い、つながること、まちに新たな力と可能性が生まれていきます。

この3つの合言葉を意識しながら、未来の小千谷をとともに育んでいきませんか。

その1

挑

市民、企業、団体、行政が協力して、みんなで 挑戦しよう！

「これをしてみたい」「こんなことができるかもしれない」、そうした前向きな気持ちを大切にしましょう。自分の力だけでは難しいことも、みんなと協力し、互いの知恵と力を合わせれば実現でき、そこに新たな価値と活力が生まれます。「挑戦」が小千谷の未来を切り拓く原動力となります。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 自分の得意なこと（料理、絵、話し合いなど）を地域の中で活かしてみる
- ☺ 地域のワークショップや意見交換会に参加して、自分の意見を伝えてみる
- ☺ 地域課題の解決につながるサービスや商品づくりに挑戦してみる
- ☺ ボランティア活動や地域行事に参加・協力する
- ☺ 挑戦できる環境を整備し、実現できるよう支援する

その2

援

チャレンジしている人たちを、みんなで全力応援しよう！

新しい事業を立ち上げる人たちや地域を盛り上げようと尽力する人たちへ、「頑張って！」という応援の気持ちを届けましょう。周りからの温かい声は、挑戦する人たちにとって大きな支えとなります。

互いを認め、支え合う「応援」の気持ちが、まち全体の活性化へとつながります。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 学校や地域活動で頑張っている友人や知り合いに励ましの言葉を送る
- ☺ 応援したい活動や取組を、家族や友人に紹介してみる
- ☺ 新しい挑戦や活動を協賛・寄付などで支援する
- ☺ 店舗スペースや機材を、イベントや活動の場所として貸し出す
- ☺ 活動に必要な施設・設備の貸出や、安全・手続き面の支援を行う

その3

発信

小千谷の宝を磨き、誇りを持ってみんなで 発信しよう！

小千谷は錦鯉や花火、豊かな自然など、数々の素晴らしい宝に満ちています。かつて先人たちが未来を切り拓いてきたように、今度は私たちがこの宝を再発見し、磨き、未来へつなぐ番です。小千谷の魅力を伝える「発信」が増えるほど、まちに活気と明るさが広がっていきます。

→具体的なアクション例

（☺：市民 ☺：企業、団体 ☺：行政）

- ☺ 地域の観光地や文化財を巡り、小千谷の宝を再発見する
- ☺ 県外の友人を招いて、一緒に観光や地域イベントを楽しむ
- ☺ お気に入りの小千谷の景色や特産品をSNSや口コミで広める
- ☺ 店舗内に小千谷の魅力を紹介するコーナーをつくる
- ☺ 文化財や景観の修復・保全、観光スポットの整備を行う
- ☺ 広報やホームページに特集記事を掲載し、市民や地域の取組を紹介する



関わり方は人それぞれ。
参加する人も、支える人も、見守る人も、
みんなが小千谷を支える大切な力です。



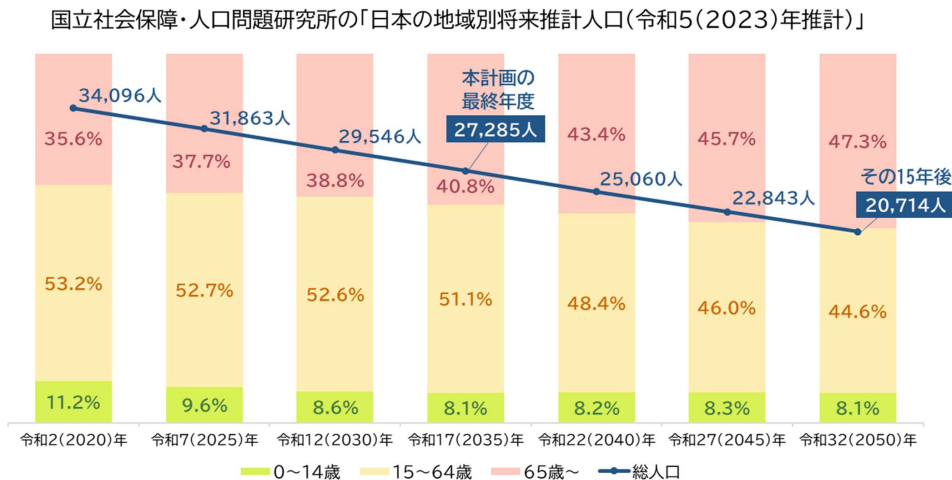
心が動いたときが、あなたのタイミング。
その「やってみよう」が、小さな一歩になります。

■ 目指すまちの姿の実現により、今後も持続するまちへ

平成2（1990）年に43,437人だった小千谷市の人口は、30年後の令和2（2020）年には34,096人まで減少しました。この30年間でおよそ5人に1人が減った計算になります。

国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によると、本計画の最終年度にあたる令和17（2035）年には27,285人に、さらにその15年後の令和32（2050）年には20,714人にまで減少し、今後30年間で約13,000人もの人口が減少すると見込まれています。

また、人口構成も大きく変化すると予測されています。令和27（2045）年には、「老年人口」（65歳以上）の割合が、社会を支える働き手である「生産年齢人口」（15歳～64歳）を上回り、令和32年（2050年）には、老年人口が市民全体の47.3%を占めると見込まれています。



令和2（2020）年以降の出生・死亡および転入・転出の動向をみると、転入者数は令和2（2020）年に落ち込んだ後、令和3（2021）年以降は回復の傾向が見られるものの、出生数は減少傾向が続いています。

（単位：人）

	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)	平成29年 (2017)	平成30年 (2018)	令和元年 (2019)	令和2年 (2020)	令和3年 (2021)	令和4年 (2022)	令和5年 (2023)	令和6年 (2024)
出生数	239	231	200	220	228	176	186	171	148	126
死亡数	508	516	525	473	476	491	512	494	518	524
転入者数	723	694	705	605	684	598	651	835	765	741
転出者数	925	851	900	846	988	901	865	863	900	951

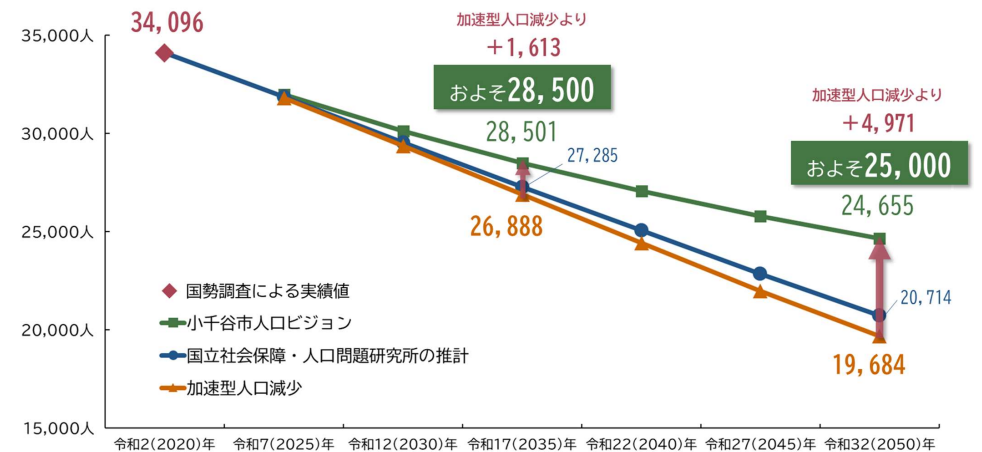
出典：新潟県人口移動調査結果報告

このまま生産年齢人口の減少と少子高齢化が進み続けた場合、国立社会保障・人口問題研究所の推計よりもさらに減少が進むことが想定されます。

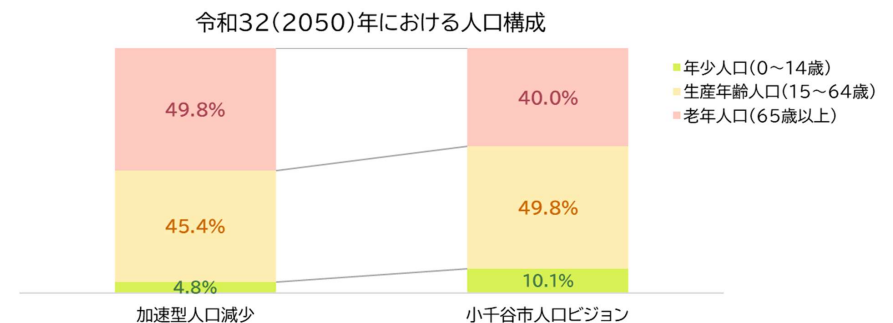
本市が独自で推計した「加速型人口減少」パターンでは、令和32（2050）年に20,000人を下回り、老年人口が市民全体の約半数に近い49.8%を占めると見込まれています。

しかし、この予測をただ見ているわけではありません。市民、企業、団体、行政が一体となって、笑顔と希望を育む「おぢやの輪」を未来へつなぐことで、人口の減少幅を最小限に抑えるとともに、人口構成を改善し、持続可能なまちを目指します。

今後の人口の見通しをまとめた「小千谷市人口ビジョン」では、その実現に向けた目標値として、**令和17（2035）年の総人口を28,500人、令和32（2050）年の総人口を25,000人**と定めています。



この目標を達成することで、令和32（2050）年における老年人口の割合は40.0%、生産年齢人口の割合は49.8%となり、働き手の安定的な確保や経済活動の維持、子育てしやすい環境や高齢者を支える仕組みの充実につながると考えています。



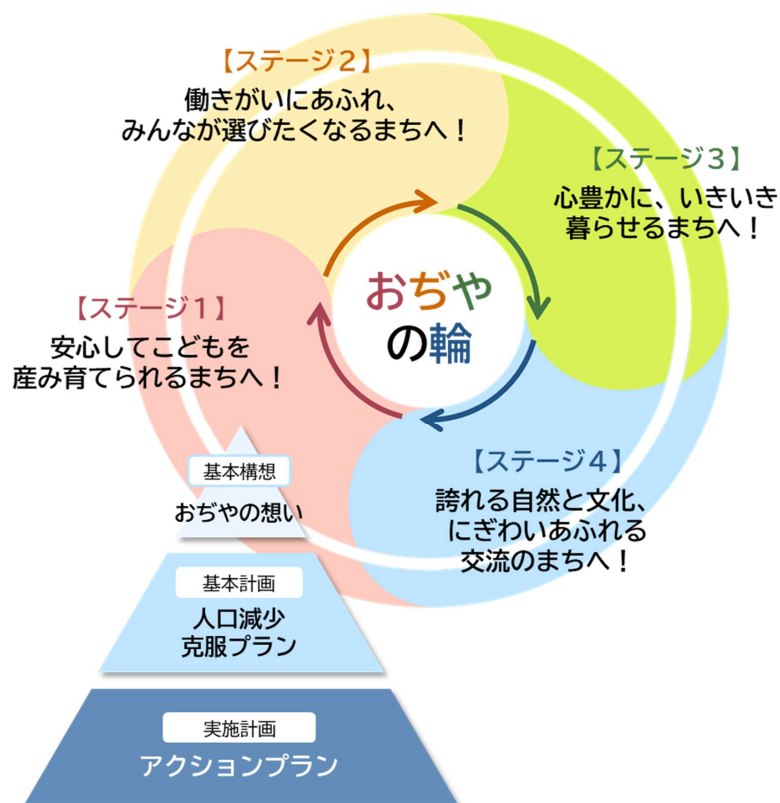
【Part 1 「おぢやの想い」 まとめ】

未来のまちの姿

- 誰もが笑顔で希望を持ち、
安心して暮らし続けられる、持続可能なまち
- 令和32（2050）年の小千谷市の人口 25,000人

今後10年間でめざすもの

- 「**笑顔と希望**を育む『**おぢやの輪**』を**みんなで**未来へつなぐまち」の実現
- 令和17（2035）年の小千谷市の人口 28,500人



コラム①

感覚でつかむ！おぢやのイマ

現在、小千谷には約32,000人が暮らしています。この数字、日本武道館が2つ満員になるくらいと言われても、なかなかピンとこないかもしれません。

そこで、「**小千谷がもし、100人の集まりだったら？**」という視点に置き換えて考えてみました。こう考えると、小千谷で起きている様々な出来事が、まるでご近所さんの話のようにぐっと身近なことに感じられるのではないのでしょうか？



14歳以下は**10**人、65歳以上は**37**人います。
その間の世代(15～64歳)は**53**人います。

こどもの数が減り、お年寄りの割合が高くなるという現象は日本中で起きています。

「住民基本台帳人口調査票」より

6歳未満のこどもは**3.2**人、
小学生は**4.2**人、中学生は**2.5**人、
高校生に相当する16～18歳は**2.9**人います。

「住民基本台帳人口調査票」、「小千谷市統計書(2024年度版)」より

(市内の全世帯を100世帯に例えた場合…)
夫婦とこどもの世帯は**25**世帯、
夫婦二人世帯は**18**世帯あります。
1人暮らしは**24**世帯で、
そのうちお年寄りの1人暮らしは
11世帯あります。



市内にはおよそ12,000世帯が暮らしています。
ひと世帯当たりの人数は2.76人で、1人暮らしや二人暮らし、お年寄りのみの世帯が増えており、地域のつながりの大切さが改めて見直されています。

「令和2年国勢調査」より



多い時にはまちに**139**人いましたが、
2050年には**61**人に減るかもしれません。

昭和55(1980)年には、過去50年間で最多となるおよそ4万5千人だった人口が、現在3万2千人。これまでの傾向をもとに計算すると、令和32(2050)年には1万9千7百人になると見込まれています。

「小千谷市統計書(2024年度版)」、「小千谷市人口ビジョン」より

外国籍の人は**1.4**人います。

ベトナム、インドネシア、フィリピンをはじめ、ミャンマー、中国など多様な文化を持った人々がともに暮らすまちです。

「住民基本台帳人口調査票」より

1年の間に**2.9**人が市外へ引っ越して、
新たに**2.3**人が小千谷へやってきます。

「令和6年新潟県人口移動調査」より

37人いる65歳以上の人のうち、
6.4人が介護または支援を必要としています。

「令和6年度主要な施策の成果説明資料」より

仕事を持っている人は50人います。
そのうち、製造業で働いている人が最も多く、
その人数は14人です。
これに続き、卸売業・小売業が6.8人、
医療・福祉が5.7人となっています。

「令和2年国勢調査」より

身体障害者手帳を持っている人が3.8人い
ます。
身体障がいには、視覚、聴覚、音声、肢体不自
由、内部機能など様々な種類がありますが、
その中で最も多いのが肢体不自由で、
1.8人がこの区分にあたります。

近年、年を重ねることに伴う聴覚(聞こえ)の障がい
や、肢体不自由(手足や体の動きの不自由)を抱える
お年寄りが特に増えています。

「小千谷市の社会福祉(2025年)」より

71人が運転免許を持っています。

小千谷警察署調べ



今度は、小千谷の現状や出来事について、
「一日当たり」や「一人当たり」などの単位で、実際の数を見てみましょう。

3日に1人、赤ちゃんが生まれ、
3日に4.3人の人が亡くなっています。

R5(2023)年10月からR6(2024)年9月までの
1年間における出生数は126人、死亡数は524人。
今後もしばらくは生まれる人より亡くなる人が多い
状況が続くと見込まれています。

「令和6年新潟県人口移動調査」より

小千谷駅は一日当たり
1,090人が利用しています。



「小千谷市統計書(2024年度版)」より

1年間で行政サービスに使われるお金は
220億円に上り、市民一人当たり68万円の
費用がかかっていることになります。

令和6(2024)年度に、福祉や教育、道路や公園の
整備などの市民サービスに使われたお金は、一般会
計で220億5,215万円。国民健康保険や介護保険
などの特別会計をあわせると、301億円に上ります。
一方で、1年間に入ってきたお金は、一般会計で
226億3,206万円。市民一人当たりだと、およそ
70万円です。特別会計をあわせると、308億円とな
ります。

「令和6年度歳入歳出決算書」より

一日当たり512冊の本が
図書館から借りられています。



前年度の一日当たりの貸出冊数は419冊でした。
ひと・まち・文化共創拠点ホントカ。の開館に伴い、
本の貸出冊数が大幅に増加しました。

「小千谷市統計書(2024年度版)」より

市民1人に量11量分の公園と、
量3.3量分の公共施設があります。

市内には15の都市公園があり、この総面積58.11ha
を総人口で割ると、一人当たり17.9㎡となります。
公共施設の場合は、一人当たり5.39㎡です。

小千谷市調べ、
「小千谷市公共施設等総合管理計画(令和5年2月改訂)」より

1人につき一日当たり
0.374㎡のガスを使っています。
これは、シャワーを1時間15分浴び続けた場
合や、朝・昼・晩の調理にコンロを合計3時間
使い続けた場合の消費量に相当します。



「小千谷市統計書(2024年度版)」より

1人につき一日当たり
503グラムのゴミを排出しています。
これは、コンビニのレジ袋いっぱいにつめた
量に相当します。

「小千谷市統計書(2024年度版)」より

交通事故は8日に1件、
火災は41日に1件発生しています。

「小千谷市統計書(2024年度版)」、
「消防年報(令和6年度版)」より

119番通報は1日あたり7件です。
救急車は1日あたり5回出動しています。
ドクターヘリはひと月あたり7回出動してい
ます。

R6(2024)年における入電件数は2,570件。救急
車出動回数は1,868件、ドクターヘリは82件です。
今後も、救急車の適切な利用が求められています。

「消防年報(令和6年度版)」より

1人につき一日当たり
235リットルの水を使っています。
これは、500mlペットボトル470本分です。



「小千谷市統計書(2024年度版)」より

1年間の降雪量はおおよそ3.5メートル。
冬(12～3月)の間に平均して
毎日2.9センチの雪が降っています。



R5(2023)年からR6(2024)年までの1年間におけ
る降雪量は3メートル48センチ。記録が残っている中
で1年間の降雪量が多かったのは、昭和60
(1985)年から昭和61(1986)年にかけての冬期間
で、16メートル以上の雪が降りました。

「小千谷市統計書(2024年度版)」より

小千谷で育った錦鯉は、
一日当たりおよそ**713**尾が
世界へと輸出されています。



R6(2024)年度には、市内で育てられた錦鯉
260,124尾が25か国へ輸出され、その輸出額は
14億8千万円に達しています。

小千谷市調べ

1年間におよそ**22,000**発の花火が
打ち上げられています。



おちやまつり大花火大会では約7,000発、片貝まつり
(浅原神社 秋季例大祭奉納大煙火)では約15,000発
の花火が夜空を彩ります。

小千谷市調べ

1年間に**110**万人を超える観光客が訪れて
います。

実際には、令和6(2024)年度の1年間で、およそ
117万人の観光客が小千谷を訪れました。
そのなかでも、同年9月に開館したひと・まち・文化
共創拠点ホントカ。には、令和7年(2025)年3月ま
での約半年間で、19万8千人ほどの人が来館してい
ます。

「令和6年度主要な施策の成果説明資料」より

